

# 経済・金融フラッシュ

No.07-043 2007/07/09

## 6月マネー関連～法人向け貸出が06年2月以来のマイナス

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 矢嶋 康次

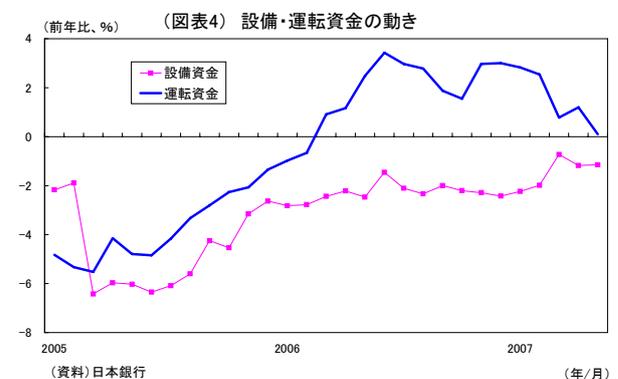
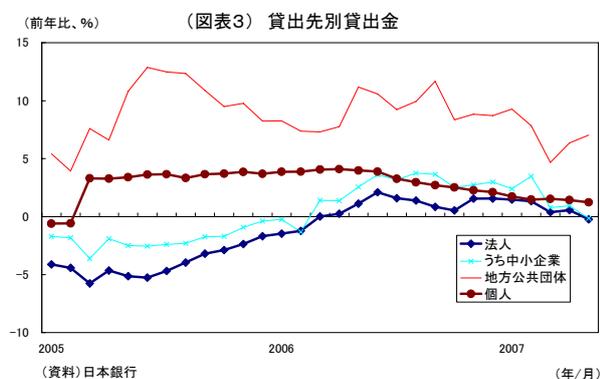
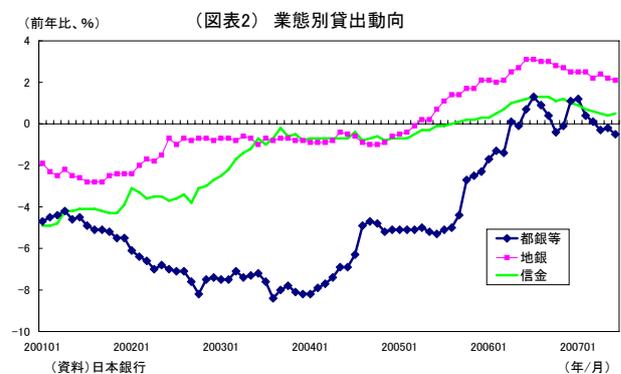
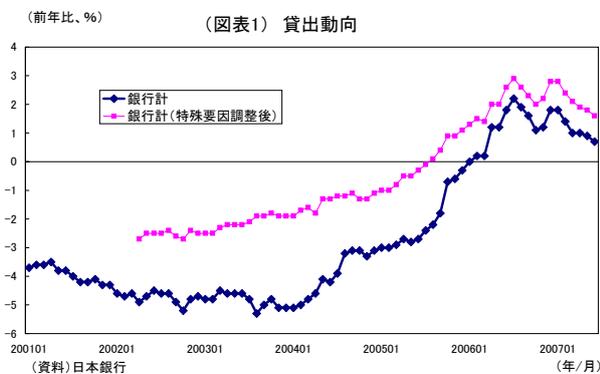
TEL:03-3512-1837 E-mail:yyajima@nli-research.co.jp

### 1. 貸出動向：法人向け貸出が減少

日本銀行が7月9日に公表した貸出・資金吸収動向等によると、6月の総貸出（平残、銀行・信金計）は前年比0.7%と17カ月連続のプラスとなった。ただし、伸び率は1月以降一服という状況が続いている（図表1）。

業態別には、地銀（同2.1%）が比較的堅調を維持しているが、都銀等（同▲0.5%）は3カ月連続で前年比マイナスとなった（図表2）。

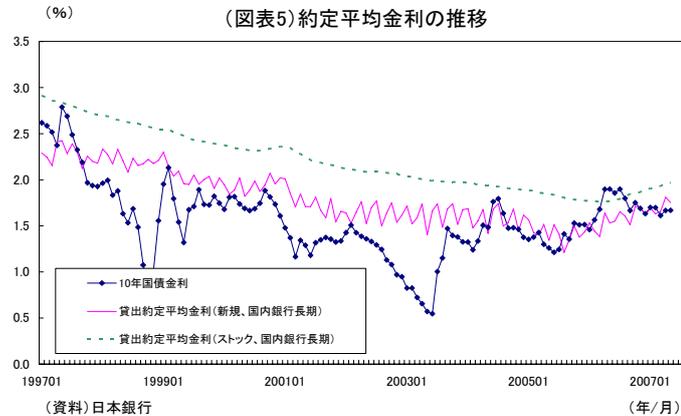
貸出先別貸出金（6/29日公表、5月分）を見ると、法人向け貸出は前年比▲0.2%と2006年2月以来のマイナスに転じている（図表3）。



## 2. 約定平均金利

5月の約定平均金利（6/29日公表）を見ると、ストックは2006年4月以降、対前月よりも利回りが上昇している。10年国債金利との比較でみると新規は3カ月連続、ストックは2006年8月以降貸出金利のほうが上回っている（図表5）。

6月以降、10年国債は1.9%台に上昇しており、貸出金利が6月分以降どの程度上昇するのか注目だ。

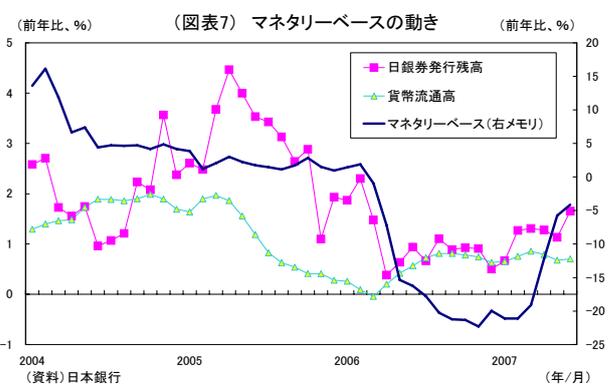
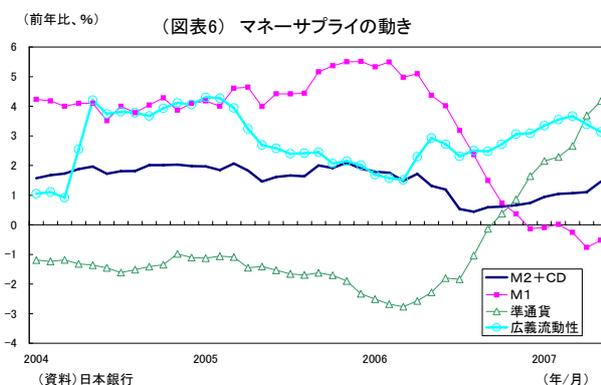


## 3. マネーサプライ、マネタリーベース

マネーサプライ統計（7/9日公表）によれば、6月のM2+CDは前年比1.8%と5月1.5%から若干伸び率が高まった（図表6）。普通預金から定期預金へのシフトが継続。M1が伸び悩む（同▲0.2%）一方で、定期預金を含む準通貨は同4.1%と高い伸びとなった。また広義流動性は、投資信託などの高い伸びから、M2+CDよりも高い前年比3.6%となっている。

3日に公表された6月分マネタリーベースは、日銀当座預金残高の減少の影響が低減してきてはいるが、前年比▲4.1%とマイナスが継続している（図表7）。

ただし、当座預金残高以外の要因については、日銀券発行残高は1.7%と伸び率を高め（5月は1.1%）、貨幣流通高は0.7%と比較的安定した動きとなっている。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)